

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ「農商務省」へ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手数料ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條 試験出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限リ日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地へ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先区内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ

十四年第七十二號布告  
例處斷方第百三十三類ニ  
載ス

嚮導スルル免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスルハ何時ニテモ免許水先人へ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスルハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ「農商務省」ニ願出ツヘシ「農商務省」ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル区域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第一號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス只檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ(十三年第三十九號布告ヲ以テ本項改正)

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ(十三年第三十九號布告ヲ以テ本項改正)

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前檣ニ於テ其船ノ船首旗英語ヨ又ハ國旗ヲ掲揚スル

第二 萬國普通ノ信號PTノ符字ヲ揭示スル

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スル

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ二分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スル

第二十一條 各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ「農商務省」ニ於テ其執業ヲ

停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ「農商務省」ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 「農商務省」ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪ヘサルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

(水先料一覽表略之)

○西洋形船海員雇入雇止規則 明治十二年二月 第九號布告

西洋形船海員雇入雇止規則別冊之通相定來ル八月十六日ヨリ施行候

船舶ノ事務ハ十九年勅令第二號ニ依リ逕信者ニ屬ス以下之ニ依リ

條此旨布告候事 (十三年第十號布告ヲ以テ西洋形商船ヲ西洋形船ト改ム以下倣之)

(別冊)

西洋形船海員雇入雇止規則

第一條 西洋形船(蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ

第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ「農商務省」ヨリ發スル海員雇入證書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作り雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ (十四年第四十三號布告ヲ以テ内務省ヲ農商務省ト改ム以下倣之)  
但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

第三條 内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ヶ月以内ト定ム然レモ外國航船ニ於テハ六ヶ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條 雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ「農商務省」ヨリ發スル海員雇止證書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上浦役

人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ  
 雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ検査ニ供  
 シ且其検査證書ヲ申受ヘシ(十六年第四十五號布  
 告ヲ以テ本項追加)  
 雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手数料トシテ被雇者給金一月  
 分ノ百分一ニ當ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツ、浦役場ニ納  
 ムヘシ(十六年第四十五號布  
 告ヲ以テ本項追加)  
 雇入定約書及ヒ雇止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ貳名以上ノ  
 保證人ト連署シテ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ  
 簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ(十六年第四十五號布  
 告ヲ以テ本項追加)  
 第五條 雇止ハ雇入地ニ限り行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至  
 ルモ雇入地ニ歸着スル迄ハ雇入期限内ト見做スコトヲ得ヘシ  
 但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限りニアラス  
 第六條 左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ハラヌ雇者  
 ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

一 疾病又ハ體質痿弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者  
 一 本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時  
 但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地へ歸還  
 セシムヘシ

一 第十條ニ掲クル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者  
 一 第十一條ヲ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ハラヌ被  
 雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ  
 一 苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時  
 一 飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時  
 但右ノ場合ニ於テハ雇入地へ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘ  
 シ

第八條 外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事  
 館ニ於テ「農商務省」ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書

ヲ作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ  
但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保テ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條 新タニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入スヘカラス

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者(第十一條ノ脱船者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脱船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル者ヲ云フ)ハ其事情ニ因リ百日以内ノ懲役ニ處ス若シ船体船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシ

十四年第七十二號布告前  
例處斷方卷第十三類ニ  
載ス

ムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

○海員雇入雇止證書用紙拂下代金整理方二十一年一月一號  
西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金ハ來明治二十一年度ヨリ各處ノ歲入トシテ整理スヘシ  
但一周歲用紙拂下高ハ別表書式ニ倣ヒ調製ノ上翌年度十二月三十日限リ當省ヘ報告スヘシ  
(別表書式ハ略ス)

○海員雇入雇止證書用紙定價十二年六月丙第三十四號達  
本年第九號ヲ以テ西洋形商船海員雇入雇止規則公布相成候就テハ本則ニ依リ當省ヨリ發行スル雇入雇止證書用紙ハ各浦役場等ニ於テ左ノ定價ヲ以テ拂下可申依テ爲心得別紙離形相付シ此旨相達候事

但(二十一年透借省訓令第)

海員雇入證書用紙 定價金四錢

同 雇止證書用紙 同 金貳錢

(離形略之)

○海員雇入證書用紙定價(二十一年十一月丙第五十四號達)

本年六月當省丙第三拾四號ヲ以テ西洋形船海員雇入雇止証書發

行ノ儀相達候處尙少數ノ人員雇入便宜ノ爲メ更ニ別紙離形ノ通

リ雇入証書發行候條右用紙ハ各浦役場ニ於テ左ノ定價ヲ以テ拂

下可申此旨相達候事

海員雇入證書用紙 定價金貳錢

(離形略之)

○內國郵船ニ乘組旅行ノ者姓名登記方(明治九年三月三十一號布告)

內國郵船ニ乘組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度

毎ニ各人ノ姓名住所并ニ何地迄赴ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテ

モ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告候事

○外國船乘込規則(明治九年三月三十號布告)

沿革略記

明治元年六月士商人ヲ論セテ諸港ヨリ外國船へ乘込  
者必ス其地府縣ノ證書ヲ受ケシム○五年八月第二  
百二十八號達ヲ以テ外國船ニ乘込ニ内地各港間航海スル者  
ノ乘込免狀ヲ廢ス○九年三月第三十號布告ヲ以テ再ヒ外國  
船乘込規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ左ノ通規則相定候條此旨  
布告候事

外國船乘込規則

第一條 外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬

籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル

屆書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條 乗船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條 乗船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手数料トシテ金拾錢ヲ納ム  
ヘシ(九年第六十壹號布告ヲ以テ手数料料貳拾五錢トアルヲ拾錢ト改ム)

第四條 乗船證書ハ每人親ヲ出應シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條 乗船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸例ハ横濱港ヨリ長崎港ニ到ル者其船舶神戸港スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閲ヲ受クヘシ

第六條 乗船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乗込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乗込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乗込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條 乗船證書ヲ所持セスシテ乗船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

十四年第七十二號布告別例處斷方參看以下條之第十三類ニ載ス

第八條 開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乗込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤテ檢閲シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手数料ヲ領收スヘシ

第九條 右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ内國人ノ乗船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乗船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乗込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條 警察官吏乗船證書ヲ臨檢シ著港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ  
(證書雛形略之)

○海外旅行手續明治十一年五月  
第九號布告

明治二年四月同三年正月布告海外行印鑑免狀渡方ノ儀及同九年十月第百二十八號布告中海外行免狀ノ廢止候條自今外務省本年一月第一號布達海外旅券規則ニ照準スヘシ此旨布告候事

○海外旅券規則明治十一年二月  
外務省第壹號布達

從來當省ヨリ發行候海外行免狀之儀海外旅券ト改稱別紙規則相定候條此旨布達候事

(別紙)

海外旅券規則

旅券ハ日本國民タルヲ證明スルノ具ニシテ海外各國ニアリテ要用少ナカラサルヲ以テ外務省ヨリ之ヲ發行ス規則左ノ如シ

第一條 旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ海港

場官廳へ願出之ヲ受取ルヘシ右郵便ヲ以テスルモ苦シカラズ旅券ヲ受取ラハ直ニ其示シアル所へ當人姓名ヲ自記スヘシ

第二條 旅券ヲ受クルモノハ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ但旅券ハ一人一枚ニ限ルヘシ若シ五歳以下ノ小兒其父母同道ナルトキハ其父母ノ旅券ニ附記スルヲ以テ足レリトス

第三條 内地ニ於テ右旅券受取ル間合之ナキカ又ハ海外ニ於テ遺失シタルカノトキハ其國在留ノ日本公使館又ハ領事館へ其趣ヲ記載セル書面ヲ出タシ自身出頭シテ願ヒ受クヘシ但其手数料トシテ金二圓ヲ納ムヘシ

第四條 公用ヲ以テ旅行シ官費ヲ以テ留學スル者ハ内地ニアリテハ其官廳ヨリ直ニ外務省ニ掛合海外ニ在リテハ前條ノ趣ニ從ヒ旅券ヲ受取ルヘシ但手数料ハ納ムルニ及ハス

第五條 旅券ハ其趣クヘキ國ノ公使又ハ領事ノ證明ヲ得ル儀其



國ニヨリ要用少ナカラス其節ハ其館ニ就テ直ニ之ヲ請フヘシ  
但其定規ニ隨ヒ手數料ヲ拂フヘキモノトス

第六條 海外ニアリテ所持ノ旅券我領事官ノ證明ヲ要用トスル  
コアリ其節ハ之ヲ請ヒ得ヘシ但領事官ナキ地ニ於テハ公使館  
ニ到リテ之ヲ請フヘシ

第七條 旅券ハ歸朝ノ後三十日以内ニ其最初受取りタル官廳へ  
之ヲ返納スヘシ郵船等ノ外員常ニ旅券ヲ要スル者ハ此限ニ在  
ラス但シ海外ニアリテ我公使又ハ領事官ヨリ受取りタル者ハ  
外務省ニ返納スルヲ以テ足レリトス

〔旅券願雛形略之〕

十二年一月内務省上申ヲ  
以テ長崎縣嚴原支廳ヲ廢  
シ郡役所ヘ事務ヲ委任ス  
十六年第五號達ヲ以テ長  
崎縣支廳ヲ對馬國下縣郡  
嚴原置ク

○朝鮮旅行者旅券出願方十一年三月外務省第二號布達  
本年二月廿日第一號達海外旅券規則第一條外務省又ハ開港場管  
廳ト掲載有之候處朝鮮國へ旅行候者ニ限リ左ノ縣廳へ願出旅券  
受取候テ不苦候條此旨布達候事  
廣島 山口 島根 福岡 鹿兒島 長崎縣嚴原支廳

○第四類 土地、鑛山、森林

○地所名稱區別明治七年十一月第百二十號布告

沿革畧記 明治六年三月第百十四號布告ヲ以テ地所名稱區別ヲ  
制定ス○七年十一月第百二十號布告ヲ以テ前令ヲ改  
定ス是レ現行法ナリ

明治六年三月第百拾四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候

官有地

第一種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤  
府縣所用ノ地ハ「地券ヲ發セス」唯帳簿ニ記入ス(八年第百十四號  
布告ヲ以テ但書

十二年法律第十三號ヲ  
以テ地券ヲ廢ス以下條之

共改正十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦スルトアルヲ地方稅ヲ賦セサルト改ム

但此地ニアル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一 皇族賜邸

一 官用地

官院省使寮司府藩縣支本廳裁判所警視廳陸海軍本營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシム

ヘシ(十二年第三十四號布告ヲ以テ借地料以下改正)

一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他

民有地ニアラサルモノ

一 鐵道線路敷地

一 電信架線柱敷地

一 燈明臺敷地

一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

十九年勅令第十六號附學  
校地則ヲ以テ公立學校ノ  
用地ヲ免稅トス該則參看  
第十六類ニ載ス

民有地

一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一 行刑場

第四種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ賦セサルト改ム)

一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

第一種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(十二年

四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ

如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院郷倉牧場

秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云(本項ハ元第二種ナルヲ九年第八十八號布告ヲ

以テ第一種ニ合ス

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フテ法トス

第二種 「地券ヲ發シテ」地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(九年第八年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方稅ト改ム)

一官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云フ(八年第百十四號布告ヲ以テ本項正改)

一民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地(八年第百五十四號布告ヲ以テ本項追加)

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

○官用地ハ人民使用ノ外協議費ノ賦課ニ應セス(十六年八月官有地第二種官用地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其在區町村協議費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各廳ノ適

揭示場ノ新築修繕等ノ由  
及ハ十二年第六號達ニ由  
地方稅ヨリ支辨ス

宜タルヘシ

○官營ニ關スル倉庫其他存置スル敷地ハ官有地第三種ニ據置ク(十年二月內務省乙第十六號達)  
明治七年乙第二十八號並同年乙第五十八號ヲ以相達候官營ニ關スル倉庫及ヒ家屋等將來使用ノ用途ヲ以テ存置スルモノ又ハ拂下ケ殘ノ分ト雖モ追テ使用候敷或ハ拂下ケ候迄ハ其敷地ハ總テ官有地第三種ニ據置候儀ト相心得可申此旨相達候事  
但使用候節ハ其時々經伺ノ上官有地第二種官用地へ組替可申事

○市街郡村揭示場敷地ハ官有地第三種トス(八年五月第七十三號達)  
市街郡村ニ屬スル揭示場敷地ノ儀從來官有地ニ有之分ハ勿論將來官有地ニ新設候分ハ官有地第三種ニ組入ヘシ尤新設修繕等一切ノ費用ハ其村市ニ於テ可相辨此旨相達候事  
但民有地ニ建設候節ハ夫々取調內務省へ可申出候事

○御歴代御殯歛地等官有地第三種トス(八年五月內務省乙第十六號達)  
御歴代天皇及皇后皇妃皇子皇女御殯歛地等御由緒判然タル場所ハ官有地第三種舊跡名區ノ部ニ編入保存可致候條御由緒等詳密調査ヲ遂ケ地形坪數等明詳記載圖面相副可伺出此旨相達候事  
○耕地ノ用水溜池等耕作ノ分借地料及地方稅ヲ課セス(八年八月第百四十六號達)

明治七年十一月第一百二十號布告ヲ以地所名稱區別改定民有地ニアラサル池澤溝渠等ハ官有地第三種ニ編入候ニ付テハ耕地ノ用水

地所名稱區別

溜池及ヒ井溝等ノ儀ハ從前ノ通り水掛リ地民ニ所用セシメ耕作  
一途ニ相用候分ニ限リ別ニ借地料地方稅等賦課ニ不及候尤右内  
地ニ生スル水草魚籃等取入利益トナスモノ其場所故障無之差許  
候節ハ相當借地料等收入候儀ト相心得内務省ニ可申出此旨相達  
候事

○地方廳賦金ヲ以テ設クル傳習所等ノ地所官有地第四種トス

九年八月 内務省乙第百十四號達

各地方廳ニ於テ賦金ノ内ヲ以建設スル傳習所女工教場及ヒ病院  
貧院等場所ノ儀ハ官有地第四種ニ編入候條既ニ建設シタル分ニ  
右ニ照シ伺出候儀ト可相心得此旨相達候事  
但民有地借受建設ノ分地種紐入方ハ此限ニ非ス

○公用土地買上規則明治八年七月  
第三百三十三號達

今般公用土地買上規則別紙ノ通相定候條右規則中人民ニ告知スヘキ  
條件ハ其廳ヨリ布達可致此旨相達候事

(別紙)

公用土地買上規則

第一則 公用土地買上トハ國郡村市ノ保護便益ニ供スルタメ院省  
「使廳府縣ニ於テ人民所有ノ土地ヲ買上ルヲ云フ

但國郡村市ノ保護便益ニ供スル爲メ人民ニテ鑛道電線上水等ノ  
大土工ヲ起ス時ハ其事業ニヨリ特別官許ノ上此規則ニ準スルヲ  
得ヘシ

第二則 公用買上ハ必ス其地ヲ要セサルヲ得サルニアラサレハ之ヲ  
行ハサルモノトス故ニ人民之ヲ拒ムヲ得ス

但其地ニ屬シタル植物建造物等モ亦本文ニ同シ

第三則 院省「使」ニテ公用土地買上ヲ要スルキハ左ノ事由ヲ内務省  
ニ照會シ内務省ヨリ地方官ニ諮詢シテ差支ナキ旨ノ回答ヲ得タル  
上該廳ヨリ「太政官」ニ上陳允裁ヲ得ルモノトス  
廳府縣ニテ公用土地買上ヲ要スルキハ左ノ事由ヲ具狀シテ内務省  
ニ稟請シ内務省ヨリ「太政官」ニ上陳シ允裁ヲ得ルモノトス  
内務省ニ照會又ハ稟請スヘキ事由左ノ如シ

- 一 土地ヲ買上ルノ事由
  - 一 該地ヲ必需スルノ事由
  - 一 某管轄國郡村市
  - 一 該地ノ番號
  - 一 該地ノ字
  - 一 該地ノ地種
  - 一 該地ノ地主
  - 一 東西何程南北何程
  - 一 方積何程
- 但該地ノ實測圖ヲ添ル者トス實測圖ハ近傍ノ地形ヲモ畧記スヘシ
- 第四則 公用ノタメ買上ル地價ハ「券面」ニ記シタル代價タルヘシ然レモ地價相違ヲ生セシ時ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ商議ヲ以テ代價増減スルコアルヘシ

二十二年法律第十三號ヲ以テ地券ヲ發シ地價ハ土地發根ニ登錄スルモノトス以下依之

但明治五年二月十四日以前潰地又ハ用地申付爲手當作德米等ヲ渡シ來リタル土地ハ同年ヨリ同七年迄三ヶ年ノ貢納石代平均ノ價ヲ以作德米七ヶ年半ノ金額ヲ一時ニ下渡シ買上ルモノトス  
(八年第百六拾號達ヲ以テ但書追加)

- 第五則 買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ併セテ買上ルキハ地價ノ外別ニ植物建造物等ノ代價ヲ渡スヘシ其代價ハ所有者ト買上ヘキ該廳トノ協議タルヘシ
- 第六則 買上ヘキ土地ニ屬シタル植物建造物等ヲ買上ケサルキハ地價ノ外別ニ植物建造物等ノ轉移料ヲ渡スヘシ轉移料ハ所有者ト土地ヲ買上タル該廳トノ協議タルヘシ
- 第七則 土地ヲ買上ヘキ該廳ハ植物建造物等ヲ買上クルコトヲ要セスト雖モ人民植物建造物等ヲ併セテ買上ンコトヲ求ムルキハ第五則ノ通タルヘシ
- 第八則 土地植物建造物等ノ買上代價及轉移料ノ見込所有者ト該廳

ノ間ニ許多ノ差違ヲ生シ熟議ニ至リ難キハ雙方ヨリ評價人各壹人ヲ出シ地方官之ヲ折衷シテ内務省ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムルモノトス

第九則 地方官土地及ヒ植物建造物等ノ買上ヲ公達シタルキハ直ニ買上代價ヲ渡スヘシ

第十則 人民買上代價ヲ受取タルキハ買上ラレタル土地植物建造物等ヲ三十日以内ニ渡スヘシ然レモ買上前ニ該廳ト別段ノ契約ヲ結ビタルハ特別トス

第十一則 土地買上ノ際事業ノ急施ヲ要スルトキハ特ニ其旨ヲ所有者ニ達シ三十日以上ノ期日ヲ定メ代價ヲ申出シムヘシ其期日迄ニ代價ヲ申出サルカ又ハ代價ニ付雙方見込相協ハサルトキハ更ニ建物アル地ハ三十日以上建物ナキ地ハ十日以上ノ期日ヲ定メ其期日迄ニ之ヲ引渡スヘキ旨ヲ達スヘシ但各其期日内ニ雙方共現在ノ實況及ヒ其見込ノ代價ヲ詳記シ評價人ノ意見書ヲ添ヘ地方官ノ認印

ヲ受置クヘシ(十五年第六十四號達ヲ以テ追加)  
十六年第五十號達ヲ以テ改正

第十二則 第十一則ノ場合ニ於テハ所有者ノ請求ニヨリ土地ニ付テハ「券面」地價十分八ノ金額建造物等ノ轉移料又ハ代價ニ付テハ假定ノ金額地方官實況ニヨリヲ渡置キ代價決定ノ上精算スヘシ(十五年第六十四號達ヲ以テ追加)

○官省ニ於テ土地ヲ要スルキ取扱方十年十二月  
内務省乙第百十三號達  
院省使ニテ官用ノ爲メ土地ヲ要スルトキハ八年太政官第百三拾貳號達公用土地買上規則第三則ニ依リ所用應ヨリ當省ニ照會相成候得者當省ニ於テ實地差支有無等諮詢致來候處自今便宜ノ爲メ所用應ヨリ直ニ地方官ニ協議シ實地差支等無之上當省ニ照會ニ諮詢不致候條所用應ヨリ協議相成候節ハ右規則ニ據リ無遺漏取調民有地ノ分ハ差支有無相答可申尤官有地ニ係ル分ハ實地差支有無取調ノ上當省ニ協議可相成旨相答置キ同時當省ニモ可申出此旨相達候事  
但官有ノ建物立木有之節ハ相當代價本文同様取調候儀ト可相心得事

○北海道土地拂下規則 明治十九年六月  
閣令第十六號

沿革略記

明治五年十月第三百四號ヲ以テ北海道土地賣貸規則  
ヲ公布ス○十九年六月閣令第十六號ヲ以テ前則ヲ廢  
シ北海道土地拂下規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

北海道土地拂下規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

北海道土地拂下規則

第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本規則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ

第二條 土地拂下ノ面積ハ一人十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數并事業ノ

目的着手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ヘシ但耕宅地ニ爲サントスル者ハ其坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ

北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸下クヘシ但借地料ヲ徵收セス

第四條 貸下期限ハ十年以内トシ土地ノ景況ト事業ノ難易トニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸下年期ノ滿限ニ際シ更ニ貸下延期ヲ必要トスルトキハ其願ニ依テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 耕宅地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海産乾場及牧場ハ隨時其事業ノ現況ヲ點檢スヘシ

第六條 耕宅地ハ其年配當ノ事業成ラサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ總テ返納セシメ海産乾場及牧場ハ第三條願出書ノ如ク成ラサルトキハ悉皆之ヲ返約セシムヘシ

天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ北海道

應ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ

第七條 貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地内ノ樹木ニシテ既ニ伐採シタルモノアレハ相當ノ樹木代價ヲ納メシムヘシ

第八條 貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其期限内ト雖モ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辨償スルモノトス

第九條 貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得已事故アリテ讓渡サントスルトキハ讓渡人讓受人連署ノ上北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受ケタル土地ノ貸下期限ハ更ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十條 素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後之ヲ拂下ケ「地券ヲ下付スヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

第十一條 本規則施行手續ハ北海道長廳官之ヲ定ム

二十二年法律第十三號ヲ以テ地券ヲ廢ス

附則

第十二條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則ニ依リ土地ノ拂下ヲ受ケ或ハ拂下人ヨリ買受ケタル土地ニシテ其事業未タ成ラサルモノハ本規則第三條第一項ニ準シ明治二十年ヨリ向フ十年以内ニ成功ノ目的ヲ以テ方法書取調本年十二月迄ニ北海道廳ヘ申出ヘシ若シ其申出ヲ怠リ又ハ申出ノ後天災地變其他避クヘカラサル事故アルニ非スシテ該方法書ノ如ク成功セサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ當初ノ拂下代價ヲ以テ之ヲ買戻スヘシ

第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則明治七年開拓使第四號布達明治十一年開拓使甲第四號布達ヲ廢止ス

○日本坑法 明治六年七月 第二百五十九號布告



沿革略記

明治元年四月鑛山ノ銅ヲ初メ古銅地銅等大坂銅會所  
 へ廻送セシメ坑業者私ニ賣捌キ仕用スルヲ禁ス○同  
 年七月鑛山ノ金銀銅總テ鑛山局へ買収シ人民需用ノトキハ  
 同局へ開申セシム○二年二月鑛山開採ハ其地ノ人民ニ故障  
 ナケレハ出願ノ上掘出スヲ許ス且金銀銅共時ノ相場ヲ以テ  
 賣買スルヲ許シ掘出數量ハ各藩縣ヨリ届出シム○同年十一  
 月新貨鑄造ニ由リ鑛山ノ金銀銅ヲ大藏省ニ買収シ恣ニ賣買  
 スルヲ禁ス○四年四月鑛山開採請負ヲ出願シ許可スルモノ  
 ハ相當ノ稅ヲ納メシム○同年七月前キノ金銀銅勝手賣買ノ  
 禁ヲ解キ且ツ年々諸鑛物掘出高ヲ開申セシム○五年三月第  
 百號ヲ以テ鑛山心得書ヲ頒布ス○六年七月第二百五十九號  
 布告ヲ以テ鑛山其他諸坑業ノ規則ヲ改メ日本坑法ヲ制定ス  
 是レ現行法ナリ

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ  
 事件ハ「工部省」ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀  
 都テ同省へ可申立候此旨布告候事

(別冊)

日本坑法

第一章 坑物

十八年第七十號達ヲ以テ  
 工部省ヲ廢シ鑛山事務ヲ  
 農商務省ニ屬ス

- 第一 正理ヲ以テ論スルキハ凡無機物タル者ハ生活ノ機ナキ諸物品 都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以出ル者或ハ他ノ物質ト合化シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山摺燐酸石炭美石及玉璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス本條舉ル所ノ有鑛質無鑛質トモ總テ是テ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑產等ミナ之ニ倣フ
- 第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨政府ノミ之ヲ採用スル分義アリ
- 第三 築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トスヘシ
- 第四 日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借り坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルヲ得ス坑産ノ割合及ヒ損益ハ都テ組合同トス 若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ没入シテ其業ヲ禁止ス可シ

第二章 試堀

第五 試掘ヲ作サント欲スル者ハ「鑛山寮」ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ試掘ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ屬セハ其償金ヲ對談處分スヘシ地主ニシテ自ラ試掘ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義アリトス然レモ自ラ試掘ノ資本無クシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ラハ「鑛山寮」或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ

第六 試掘ニテ坑物發見スルキハ直ニ見本ヲ添テ「鑛山寮」ニ届出ツヘシ且試掘中ハ一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及工數並産鑛量ヲ開報スヘシ

凡産鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收ス可シ

第七 試掘ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若シ延期ヲ願出ルニ實ニ未ダ開坑ヲ決スルコトヲ得サル事理判然タラハ之ヲ許可スルコト有ル可シ

第八 試掘人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ

此時ニ産鑛ハ「鑛山寮」ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ

試掘人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルコトアルヘシ

### 第三章 借區開坑

第九 開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應シテ之ヲ得セシムヘシ

但石炭坑ノ借區ハ壹萬坪以上ニ限ルヘシ(十五年第三十八號 布告ヲ以但書追加)

有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ

凡借區開坑ハ「鑛山寮」ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ

試掘ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主アリト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區券ヲ得ルノ後二十二款ノ如クナル可シ

第十 願出ノ借區ハ「鑛山寮」官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別

スヘシ巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ

第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ニ探礦疏水運輸ト云 我カ借區中ニ非スト雖モ之ヲ企ルヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ「鑛山寮」ヘ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ亘涉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知スヘシ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三 願出ノ洞通ハ「鑛山寮」官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與スヘシ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ「鑛山寮」ヘ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中

タリト雖モ他人ノ舉ヲ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ掘入ル

ヘカラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無

カラシム者ハ此限ニ非ス是ハ坑物ヲ得ンカ爲ニ一旦土石ヲ掘出ス時ノ如キ是也

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルヲアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ「鑛山寮」ヨリ處斷ス可シ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定ノ所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタ

ケノ礦石ヲ取ルヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此礦石ノ一半ヲ

借區人ニ歸スヘシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存スヘキ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ遺スヲナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用

十四年第七十二號布告前例處斷方參看第十三類ニ載ス

ヲ害スルモノハ其輕重ニ從テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七 試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及道路ノ如キ其害ヲ受クヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ク可シ

凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者アレハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スルニ倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ(八年第百八十三號布告ヲ以テ)  
(一倍ノ稱呼ヲ廢シ二倍ト改正)

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ「鑛山寮」ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ  
如此類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ產出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記シテ「鑛山寮」ニ報知スヘシ有鑛質ハ坑產量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有

スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クス可シ  
右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五拾圓トス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫二百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有ラス  
ンハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シテ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センヲ求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ルヘカラス若相對ヲ以テ決セスンハ「鑛山寮」ヨリ處斷スヘシ

右掘通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ  
第二十二 凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗礦所鑛鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨ス可シ若

シ異論決セスハ「鑛山寮」或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ル可シ

第二十三 總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスハ「鑛山寮」ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ「鑛山寮」ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者アレハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖モ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ  
地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其趾ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法

令ヲ遵守ス可シ

### 第六章 廢業

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスヘシ「鑛山寮」ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ検査スヘシ若シ疎漏アラハ「鑛山寮」ニ於テ之ヲ繕治スヘキ費額ノ二倍ヲ徵收スヘシ(八年第百八十三號布告ヲ以テ一倍ノ稱呼ヲ廢シ二倍ト改正)

第二十八 「鑛山寮」ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

### 第七章 製鑛所建築

第二十九 凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先ツ「鑛山寮」ニ許可ヲ請フ可シ

第三十 已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製荒銅ヲ丁銅棹銅ニ作リ山吹スル職金ヲ純金ニ製スル類ヲ云フ職業ノ者ハ起業ヲ「鑛山寮」ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ「鑛山寮」ニ開報スヘシ

第八章 稅納

第三十一 鑛ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一ケ年金壹圓ツ、借區稅トシテ毎年一月ニ其年一ケ年分ヲ前納スヘシ借區稅ハ地租ニ關係セズ 鑛及ヒ無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五十錢トス但意納者ハ借區券ヲ取揚クヘシ（十四年第四十九號布告ヲ以テ前ケ年分ヲ鑛山寮ヘ納ムヘシトアルヲ其年一ケ年分ヲ前納メヘシト改メ但以テ下ナ）

廢礦ヲ採取スル坑區ハ面積千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム可シ

開坑區面積五百坪廢礦區面積千坪トニ足サルモノハ總テ右面積ノ比例ニ從テ納ムヘシ

借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區券下附ノ節前納スヘシ（十四年第九號布告ヲ以テ） 本項改正

〔前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價百分ノ二ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ每歲一月七月兩度ニ〔鑛山寮〕ニ納

八年第二號布告ヲ以テ坑物稅收納ノ當分ノ内覽ス

ム可シ

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ從ヒ〔鑛山寮〕ヨリ命スヘシ

第三十二 試掘開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサルキ其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ヲス〔鑛山寮〕ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失アル者ハ輕重ニ從テ罰金ヲ命スヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處スヘシ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法則及ヒ舊習等若シ此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入ル、カ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ干係スル事無キニ因テ坑法第四款ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル

十四年第七十二號布告前  
附處斷方卷第十三類ニ  
載ス  
刑法第三編第一卷第四節  
參看

、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ「鑛山寮」へ送呈シテ  
テ「結約」ノ許可ヲ可請候事

(書類式樣畧之)

○北海道鑛山借區稅徵收方明治十一年二月  
第三號布告

「開拓使」管内鑛山借區稅ノ儀詮議ノ次第有之當分其營業月數ニ  
應シ月割ヲ以テ徵收候條此旨布告候事

○坑物ヲ引當トシ外國人ヨリ金子借入ルヲ禁ス明治七年十一月  
第百廿四號布告

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政  
府ノ所有物タルハ勿論ニ付縱令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來  
開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先賣約定等ノ義  
ハ不相成候條此旨布告候事

○坑業稼ノ者身代限處分中稼業差止明治九年四月  
第四拾九號布告

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不

### 相成候條此旨布告候事

○借區開坑願同差出方七年二月  
工部省第一號達  
太政官第二百五拾九號御布告日本坑法中試掘並借區開坑其他願  
同等鑛山寮へ可差出ト有之候處自今當省へ差出可申尤坑法第三  
十一條借區及坑物稅ノ義ハ該府縣廳ニ於テ取纏鑛山寮へ上納可  
致此旨相達候事

○借區明細表坑區稅試掘等開報差出方九年十月  
工部省第三號達  
諸鑛山借區明細表並坑區稅及試掘行業日數等之開報是迄鑛山寮  
へ差出來候處自今總テ本省へ差出可申此段相達候事

○坑物發見見本差出方七年十二月  
工部省第三十號布達  
試掘鑛場ヨリ坑物發見スル時ハ坑法第二章第六款ニ照準直ニ見  
本可差出等ノ處未ダ不指出者モ有之不都合ニ付左ノ條目ニ照準  
シ早々爲差出猶試掘ヲ不經シテ借區開坑候者モ同様爲差出候樣  
可致此旨布達候事

但以來モ本文同様可相心得候事  
一有鑛質無鑛質ニ不係鑛石類ハ方三寸ヨリ大ナラサルモノ三碗  
砂金ハ成丈大粒ヲ撰ミ目方壹匁ヨリ三匁迄砂鐵ノ類ハ字每ニ  
目方十匁石油山鹽等ハ字一箇所ニ付ニ合テ限毎種上中下三品  
差出ス可シ結品物ハ大小ニ不關產出ノマ、差出スヘキ事  
但結品物ノ價格アルモノ並ニ砂金ハ相當ノ代價下渡候事

一 鑛物類ハ每種必產出ノ地名並掘採人ノ名前書テ添ユヘシ  
○ 一 鑛山各自分區營業者坑區間ノ距離ヲ定ム工部省第十月二十六號  
布達

諸坑業人一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業候者雙方坑區ノ中間ニ相  
當ノ距離無之候テハ不都合ニ付自今試掘並借區開坑共雙方坑區  
ノ中間ニ拾間以上ノ距離相立可願出且現今彼此接續ノ坑區ハ更  
ニ右ノ距離取調圖面相添雙方ヨリ減區可願出此旨布達候事  
但右間地ニ於テ採鑛セサルヲ得サル節ハ雙方借區人示談ノ上  
連名ヲ以テ增借區開坑可願出事

○ 鑛場讓渡ノモテ證券下渡方工部省第七月八號布達  
借區開坑許可之鑛場甲ヨリ乙ヘ讓渡之儀坑法第二十四條之通甲  
乙雙方ヨリ願書差出當省ニ於テ調査不都合無之聞届候分ハ更ニ  
證券可下渡候條讓渡人所持之證券ハ願書一同可差出此旨布達候  
事

但讓受之年限ハ最初借區差許候年ヨリ殘年數ト相心得可申候  
事  
○ 砂鐵砂金採取出願手續工部省第十月十四號布達  
砂鐵並砂金稼行之者ハ日本坑法ニ基キ試掘借區開坑ヲ許可シ來  
候處自今都テ試掘借區開坑之名稱相廢候條該地所之名字等詳細  
之繪圖面相添採取之儀出願スヘシ且從來既ニ試掘借區開坑之許  
可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト可心得此  
旨布達候事

○ 借區稅徵收後廢坑等ノ既納金下戻農商務省令第五號  
鑛山借區稅徵收後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納金ハ下戻サ、ルモ  
ノトス

○ 坑法第三款所屬トシテ取扱鑛物

自今左記ノ鑛物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候條從前許可ヲ  
得タル試掘借區券此際返納セシムヘシ農商務省訓令第一號

寒水石(大理石) 斑石(溫石) 燧石 硝子石 蠟石

自今左記ノ鑛物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候條從前下付シ  
タル試掘借區券此際返納セシムヘシ農商務省訓令第四號

陶土 耐火粘土 石版石 瑪瑙 石綿 金剛砂 雲母 石膏  
鹹泉

○ 社寺境内ノ樹木妄ニ伐採ヲ禁ス明治六年七月  
第二百三十五號布告

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候  
若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ願出許可ヲ可受事



○ 民有森林伐木停止方明治十五年二月  
第三號布達  
 民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防禦シ頽雪ヲ支柱ス  
 ルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ漫ニ其樹木ヲ伐採セハ他ニ障  
 害ヲ來スコト不尠ニ付是等ノ森林ハ自今實地ノ景狀ニヨリ伐木停止  
 セシムルコトアルヘシ

○ 第五類 會計、租稅

○ 會計法明治二十二年二月  
法律第四號

沿革略記

明治十四年四月第三十三號達ヲ以テ會計法ヲ定ム○  
 十五年一月第五號達ヲ以テ前令ヲ改定メ○二十二年

二月法律第四號ヲ以テ會計法ヲ制定ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日  
 ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十  
 日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ  
 歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルヲ得ス

第四章 支出

第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス  
左ノ諸項ノ經費ニ限り國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ

命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總

決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ  
工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度  
内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用  
スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシ  
テ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年  
度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度  
ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組  
入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合  
ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コト  
ヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件

ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ  
競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、  
トキ

第二 政府ノ所爲ヲ祕密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物  
品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付  
スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場  
所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製  
造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造  
等ニ限アル場合

- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ス  
トキ
- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
- 第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル救育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産  
又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、ト  
キ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又  
ハ製造物品ヲ買入ル、トキ
- 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ  
生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ
- 第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前

金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

- 第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其  
ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受  
クヘシ
- 第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管  
スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上  
避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ  
受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス
- 第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシム  
ルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼マルコトヲ得  
ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス  
第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○歳入歳出豫算概定順序二十二年三月

第一條 歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 歳入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ

區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第三條 各省大臣ハ毎年度歳出概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 歳出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調製シ前年度四月十五日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度四月三十日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費每項ノ概算額以內ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條 明治二十三年度豫算ニ限リ前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得

○地租條例明治十七年三月  
第七號布告

沿革畧記 明治元年八月布告全國ノ税法姑ク舊貫ニ仍ラシメ納稅等ノ手續ヲ定ム○六年七月第二百七十二號布告ヲ以テ全國ノ地租ヲ改正シ舊法ヲ廢シテ地價ヲ定メ新ニ地券ヲ設ケ本價百分ノ三ヲ以テ正租ト爲ス仍テ地租改正條例及施行規則ヲ頒布ス○七年五月第五十三號布告ヲ以テ地租改正後五年間ハ最初定メタル地價ニ據リ收稅スヘキ旨ヲ前令ニ追加ス○九年五月第六十七號布告ヲ以テ隱田切開切添地ノ處分ヲ定ム○同年五月第六十八號布告ヲ以テ地租改正ニ臨ミ一郡内等ノ中一部分ノニ承服セサル節地價定方ヲ定ム○十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ減シテ地價百分ノ貳分五厘トナス○同年一月第八號布告ヲ以テ民有地荒地處分ヲ定ム○同年二月第十八號布告ヲ以テ地租改正後拂下地價シ地收稅區分ヲ定ム○同年十月第七十號布告ヲ以テ地租改正條例ニ據リ總テ耕地ト唱ヘシムト雖トモ尙ホ田畑ノ稱ヲ併用セシム○十三年五月第二十五號布告ヲ以テ七年第五十三號布告ノ地租改正後五年間據置ノ地價ハ尙ホ明治十八年迄據置收稅ノコトトナス○十五年七月第三十四號布告ヲ以テ

二十二年法律第十三號ヲ以テ地券ヲ廢シ地價ハ土地價額ニ登錄スルモノトス以下之

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」「沖繩縣」「札幌縣根室縣」ハ當分從前ノ通タルヘシ

(別冊)

地租條例

- 第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス  
但本條例ニ地價ト稱スルハ「地券」ニ掲ケタル價額ヲ謂フ
- 第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス
- 第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス
  - 第一類 田畑郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地、
  - 第二類 池沼、山林、原野、雜種地、



第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ  
第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水  
成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、及公  
衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト  
爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地  
ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト  
爲ス

第六條 開墾歛下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ルトキ又ハ地  
目變換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地  
ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ  
現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受  
クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ「地券記名者」ヨリ徵收ス但質入ノ土地ハ其質取主  
ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、ト爲ストキ其地租  
ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井  
溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ其地租ハ其地工事着手ノ月  
分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス  
免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ  
以テ徵收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 開墾地ハ歛下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十七條 歛下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ歛下年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 歛下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ十五年以内歛下繼年期ヲ許可ス

第十九條 歛下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモ

ノトシ其「地券」ヲ還納セシム

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第十七條ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當

ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○公立農學校實驗用ノ地所租稅免除 明治十六年十二月第四十四號布告

公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ每一校五町步以內其地租及ヒ地方稅ヲ免ス

○北海道地租定率 明治九年十二月第六十一號布告

沿革畧記 明治五年六月開拓使ヨリ北海道開墾地收稅額ヲ定ム  
○九年十二月第六十一號布告ヲ以テ北海道ノ地租地價百分ノ一ト定ム是レ現行法ナリ

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一ニ相定候條此旨布告候事

○地券廢止地租徵收方明治二十二年三月  
法律第十三號  
 朕地券廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登録シタル地價ニ依リ其記名者ヨリ之  
 ナ徵收ス

○土地臺帳規則明治二十二年三月  
勅令第三十九號

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登録ス  
 第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所

ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及ヒ質入ノ登記ヲ爲シタルト  
 キハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金貳錢ノ割合ヲ  
 以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條  
 ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ  
 區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

○買上地拂下地等收稅除稅區分明治十年二月第十八號布告

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地トナス時ハ工事着手ノ月ヨリ除稅スヘシ一日着手スルモ若シ工事ヲ中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラス(十五年第三十五號布告ヲ以テ改正)

但七ヶ月以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノトス

十七年第七號布告地租係類ニ照ス

○地租徵收期限明治十四年二月第拾四號布告

沿革略記

明治元年八月稅法ハ當分舊慣ニ仍リ各府縣諸藩ノ租稅金米ノ納付方ヲ示ス○四年四月社寺領上地ノ收納皆濟期月等ヲ定ム○四年七月廢藩置縣ニヨリ租稅徵收ハ姑ク舊慣ニ依ラシム○五年八月第百廿二號布告ヲ以テ貢米石代金上納期月ヲ定ム○六年十二月大藏省第百八十七號達ヲ以テ改曆ニ由リ地租收納期月ヲ改ム○九年一月第三號布告ヲ以テ都テ前令ヲ廢シ地租徵收期限ヲ定ム○十年七月第五十三號布告ヲ以テ徵收期限ヲ區分シ畑方三期田方三期合テ六期ト改定ス○十四年二月第十四號布告ヲ以テ前令ヲ改メ四期ニ區分シ畑方田方各二期トナシ十八年六月第十五號布告ヲ以テ田方ヲ四期トナス是レ現行法ナリ

明治十年七月第五拾三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事

但市街宅地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛ヲ收納スヘシ(十五年第廿四號布告ヲ以テ但書改正)

地租徵收期限

一期同	該年七月一日ヨリ 八月三十一日限	畑方及宅地山林原野牧場	五分
二期同	九月一日ヨリ 十月三十一日限	同	五分
三期同	十一月一日ヨリ 十二月十五日限	田方(十八年第十五號布告) ヲ以テ田方納期改正)	二分五厘
四期同	十二月十六日ヨリ 翌年一月二十五日限	同	二分五厘
五期同	三月二十六日ヨリ 三月三十一日限	同	二分五厘
六期同	四月一日ヨリ 四月二十日限	同	二分五厘

○地租田方ニ限り半額代米納ヲ許ス 明治十年十一月  
地租金ノ内田方ニ限り當分人民ノ情願ニ任セ半額其府縣ノ地租改正  
ニ用ヒタル相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候事

○所得稅法 明治二十年三月  
勅令第五號

朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三  
百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ

地租田方ニ限り半額代米納ヲ許ス 所得稅法

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戸主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及ヒ雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ但所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難

キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲グルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費、傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶

助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	稅率
第一等 所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等 所得金高貳萬圓以上	百分ノ二半
第三等 所得金高壹萬圓以上	百分ノ二
第四等 所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等 所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年二月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム  
調查委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ  
調查委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ當正ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 調查委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調查委員ノ選舉人被選人ハ二十五歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第

一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互撰セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調查委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調查委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調查委員ノ手當旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其届書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キ



ヲ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査  
委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ  
會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ  
以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開  
クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナル  
トキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會  
議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級  
金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知  
事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達

ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證憑トナルヘ  
キモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其稅  
金ハ達チ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委  
員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納  
稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徵シ過剩アルモノ  
ハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要  
ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産  
及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シ  
タルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅  
額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既

納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逋税シタル者ハ其逋税金高ニ倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當金、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限り七月三十一日マテニ差出スヘシ

○所得税法施行細則二十年五月八號大藏省令第八號  
所得税法施行細則左之通相定ム

所得税法施行細則

第一條 戶主ニ所得ナク、テ同居ノ家族ノミヨ、所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納税スヘキモノトス

第二條 税法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ヲ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 税法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納税管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セムヘシ  
一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ  
 寄留スル納稅者  
 第六條 一人コシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地  
 ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ収  
 入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ  
 第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡  
 區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意  
 見ヲ附スヘシ  
 第八條 納稅者他ノ郡區役所所轄内ニ轉居セントスルキ及ヒ轉  
 居シタルキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ  
 第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タル  
 トキハ直ニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ  
 郡區長ニ通報スヘシ  
 第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ  
 關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一箇人  
 ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得  
 第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ税法第六條ノ届出ニ依  
 リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ  
 第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知  
 事之ヲ定ム  
 第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ己ム  
 ヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名  
 スヘシ  
 第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日  
 マテニ之ヲ達スヘシ  
 第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣  
 知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ割シ  
 毎部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅  
 調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得  
 第十七條 税法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海  
 道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スヘシ  
 第十八條 調査委員招集ニ應ゼサルカ又ハ會員過半数出席セズ  
 若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調  
 査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣  
 知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フ  
 ヘシ  
 第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者  
 ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
 附則(二十年大藏令第十  
 三號ヲ以テ本則改正)  
 本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二  
 月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ  
 (舊式略之)

○所得稅納稅者届出書面ノ誤謬訂正申出ノ時取扱方二十一年七  
大藏省訓令第三十五號

所得稅納稅者届出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツ  
ルトキハ郡區長之ヲ審査シ其事實明確ト認ムル者ニ限り左ノ區  
別ニ從テ之ヲ取扱ヘシ

第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之  
ヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ郡  
區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得

第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後  
ニ係ル者ハ所得稅法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ



○酒造稅則 明治十三年九月  
第四十號布告

沿革略記

明治元年五月古來ノ酒造鑑札ヲ改メ造石數ニヨリ上  
納金ヲ定メ并増造減造ノ方法ヲ定ム○同年九月百石  
未滿ノ酒造願ニヨリ百石迄ノ増造ヲ許シ及千石以上ノ株高  
分株ノ事ヲ許ス○二年十二月民部省ヨリ酒造株濁酒造株醬

油造株鑑札冥加金并年々冥加金ノ額ヲ定ム○四年八月清濁酒  
銘酒類并醬油釀造取締方稅則ヲ制定シ從前ノ株鑑札ヲ廢止  
シ更ニ免許鑑札ニ換フ○八年二月第廿六號布告ヲ以テ前令  
ヲ廢シ更ニ酒類稅則ヲ制定ス○十三年九月第四十號布告ヲ  
以テ前ノ酒類稅則ヲ廢止シ酒造稅則ヲ制定ス是レ現行法ナ  
リ

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則  
ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

(別冊)

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出  
酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造  
スルヲ得ヘシ

- 一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造  
シタルモノヲ云フ
- 二類 蒸溜酒 燒酎酒精再溜酒精其他  
蒸溜シタルモノヲ云フ  
(十五年第十七號布告ヲ以テ酒精云々ノ六字ヲ加フ)
- 三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ  
又ハ之ヲ元トシテ製造シタル者ヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ  
(十五年第六十一號布告)  
(ヲ以テ税額ノ項共改正)

酒造免許税

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項造石高各項共追加)

清酒 百石

濁酒 拾石

一類 清酒濁酒 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ  
(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ  
(十五年第十七號布告ヲ以テ删除シ)  
(同年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出し書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石数ニ係ル税額ノ半数(十五年第  
告ヲ以テ  
本項改正)

第二期 七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石数ニ係ル税額ノ半数(十五年第  
告ヲ以テ  
本項改正)

第三期 十月三十一日限(十九年勅令第七十九號ヲ以テ九月三  
十日トアルヲ十月三十一日ト改ム)

七月一日ヨリ皆造検査済石数ニ係ル税額并前納額ノ残数

第十條 造酒ノ石数ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ  
現石数ニ付納税スヘシ(十五年第六十一號布  
告ヲ以テ但書共追加)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一  
箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出

且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總  
テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和  
スル者モ其造石税ハ總石数ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中  
ニ二類ヲ三類  
ニ變製スル類スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石  
数ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石数ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第  
十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳  
ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ノ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ其實買讓與貸借ハ其時々管廳へ届出ツ可シ(十六年第十六號布告ヲ以テ改正)

造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外へ移スコトヲ許サス(十六年第十六號布告ヲ以テ本項追加)

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済ニ係ル造石税ヲ完納ス可シ(十六年第十六號布告ヲ以テ本項追加)

追加

第三章 禁令 雜令

第廿一條 酢及酒もトヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もトノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ在ラス(十五年第十七號布告ヲ以テ但書追加)

第廿二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第十六號布告ヲ以テ改正)

第廿三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第廿四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第廿五條 造酒摺溜器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用ス

ルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第廿六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第廿七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第廿八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第廿九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ没收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一布告ヲ以テ本條改正但書追加)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ没收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號)



布告ヲ以テ追加十六年第二十六號布告ヲ以テ第十四條ノ下又ハ云云ノ六字ヲ刪ル

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(十六年第六號布告ヲ以テ本項改正)

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ但書共追加)但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯

シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

酒造稅則附則(十九年勅令第六十號ヲ以テ改正)

第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シテ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

- 一 酒類受卸賣營業者
- 一 飲食店又ハ旅籠屋營業者
- 一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ超ユルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ

他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三

圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス

之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚

ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ

製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ

其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條

ヲ適用ス

○酢造營業者酢元ニ供スル酒類ハ酒造稅則ニ據ラシム 明治十六

第四拾貳 號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第

三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ検査未濟ノ酒

類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ

罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收シ其已ニ賣捌キタル者ハ代

價ヲ追徴ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ

違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○酒造醬麴及賣藥印紙煙草稅則ニ關シ犯罪アルキ租稅官吏處分

方 明治十六年十二月 第四十三號布告

酒造稅則醬麴營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ

於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯

則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證票  
ヲ携帶スヘシ

- 自家用料酒類製造者心得十九年八月二十七日勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム
- 第一項 酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出スヘシ
- 第二項 前項屆出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳ヘ屆出ヘシ
- 第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ
- 第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ屆出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
- 第五項 第一項免許屆書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル
- 第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○輸出酒類戻稅規則明治二十一年七月

朕輸出酒類戻稅規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

輸出酒類戻稅規則

- 第一條 内國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港稅關ノ検査ヲ受ケ置輸入港稅關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サル者ハ其効力ヲ失フヘシ
- 第二條 造石稅ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ検査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻稅ハ之ヲ還納スヘシ
- 第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第四條 本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

○輸出酒類戻稅規則施行細則二十一年八月  
本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通相定

輸出酒類戻税規則施行細則

- 第一條 酒類ヲ外國へ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ請ヒ検査済ノ證明書ヲ受クヘシ
- 第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港税關ノ證明書ニ必ス在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ税關ニ申出テ造石税金ノ下戻ヲ請フヘシ
- 第三條 外國ニ輸出シ造石税下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數ト當初税金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受ケ造石税金ヲ還納スヘシ
- 第四條 造石税金下戻及還納ノ際石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

○沖繩縣酒類出港税則 明治二十一年三月 勅令第十二號

朕沖繩縣酒類出港税則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣酒類出港税則

- 第一條 沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港税トシテ酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス
- 第二條 出港税ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船改所ヲ設置ス
- 第三條 荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港税ヲ船改所ニ納メ船積免狀並領收證ヲ受ケ船積スヘシ
- 第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ届出ヘシ
- 第五條 那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出港スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ
- 第六條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ
- 第七條 但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ
- 第八條 出港税ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港税金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收スル

ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第七條 第四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 主任官吏ノ検査ヲ拒ム者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條 前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑托ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條 此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

○沖繩縣酒類出港稅則施行細則二十一年七月號  
本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

第一條 酒類ヲ他府縣へ輸出スル者ハ少ナクモ出港二十四時以前ニ左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ税金相添へ那覇船政所へ

申出其酒類ノ検査ヲ請ヒ船積免狀及税金領收證ヲ受クヘシ

一 酒類ノ種目及石數

一 出港稅額

一 容器ノ種類及箇數

一 荷主ノ族籍住所姓名

一 船名及船長姓名

一 出港地名

第二條 船政所ハ酒類ヲ検査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ税金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ枘量ヲ合計シ合位ニ金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス

第四條 主任官船舶ノ検査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條 出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○朝鮮國製造日本酒類輸入海關稅明治十九年七月勅令第六十一號

朕朝鮮國ニ於テ製造シテ我國ニ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮國ニ於テ製造シテ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ内左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收ス

釀造酒一石ニ付

金四圓

蒸溜酒一石ニ付

金五圓

再製酒一石ニ付

金六圓

○ 醫麴營業稅則 明治十三年九月 第四拾壹號布告

沿革略記

明治六年四月大藏省第六十七號達ヲ以テ醫麴營業者ニ免許鑑札ヲ付與シ醫麴稅ヲ徵ス○八年二月第貳拾一六號酒稅規則改正布告ノ但書ヲ以テ醫麴稅ヲ廢ス○十三年九月第四拾壹號布告ヲ以テ再ヒ醫麴營業稅則ヲ制定ス

是レ現行法ナリ

醫麴營業稅則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

醫麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醫麴釀造酒類ノ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管

廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ

通納ムヘシ

醫麴營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期

トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ム

ヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管

廳へ届出へシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳へ差出シ検査ヲ受クヘシ  
警麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ(十五年第六十二號布告ヲ以テ本項追加)

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ警麴賣捌所ト書シタル標札へ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス警麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅

十六年第四十三號布告警麴營業稅則ニ關シ犯罪アルトキ租稅官更屬分方受得本類ニ載ス  
十四年第七十二號布告前例處罰方參看以下條之第十三類ニ載ス

二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 警麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣警麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類(警麴ヲ除ク)ヲ製造スルヲ許サス(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)

第十五條 警麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)

○醬油稅則明治二十一年六月  
勅令第四十七號

沿革略記

明治四年七月醬油釀造鑑札渡方規則及收稅方法ヲ定ム

○八年二月第廿六號布告ヲ以テ稅則ヲ廢ス○十八年五月第拾號布告ヲ以テ再ヒ醬油稅則ヲ制定ス○二十一年六月勅令第四十七號ヲ以テ前稅則ヲ改正ス是レ現行法ナリ

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條

醬油溜ヲ併稱ス

製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造

場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歲未滿ノ幼年者及

瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條

醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅

製造場一箇所ニ付一箇年

金五圓

造石稅

醬油ハ諸味一石ニ付溜ハ製成一石ニ付

金一圓  
金一圓

第三條

營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日

限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者

ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條

造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節

之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ

管廳ニ申出造石數ノ查定ヲ受クヘシ

造石數查定濟ノ醬油ト查定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總



石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場一箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外

ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依托ヲ受ケ又ハ家用

料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當ス

ル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ查定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受サル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ

其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此税則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此税則ニ從フヘシ

第二十九條 此税則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

○醬油税則施行細則<sup>二十一年八月</sup>大藏省令第九號  
本年六月勅令第四十七號醬油税則施行細則左ノ通相定ム

醬油税則施行細則

- 第一條 税則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラズ都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ検査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得
- 第二條 二人資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ
- 第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅検査員派出所ニ届出ヘシ
- 第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅検査員派出所ニ届出ヘシ
- 第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅検査員派出所ニ届出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ
- 新々ニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
- 第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ税則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ
- 第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日

買入先キヤ帖簿ニ記載シ置クヘシ  
第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管應ニ申出検査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ掲クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅検査員  
派出所ニ申出検査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號及管應ノ烙印ヲ  
施フモノトス

丈量法

口徑ノ頭ヨリ三寸筒所ノ口徑ノ中央底徑ノ筒所ヲ就レモ内測ニテ縱橫  
⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ二ヲ以テ之ヲ除ス深サハ其桶  
ノ前後左右中心等就レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ  
和シ五ヲ以テ之ヲ除ス  
但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス  
胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス  
口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス  
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇〇四〇三八四四ノ乘率  
位ニ止メ尺位ヲ寸位ニ換シ分位ヲ乘シ二ヲ以テ之ヲ除シ其容積ヲ  
得

第九條 石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿クサル端數ハ  
容器中斐類其他異様ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準  
シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ  
入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假  
定ス乘此底徑ニ倍シ全深ニテハ口徑ノ減シ空積ノ深サヲ  
減トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス  
假定ノ底徑ト口徑トノ相乘シ乙トス  
右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇〇四〇三八四四ノ乘率ノ一  
尺トシ丈量尺度ハ分位ニ止メヲ乘シ其得ル石數ヲ容器帳簿記載  
ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定  
ス此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモハ其胴徑ヲ假定  
之ニ底徑ヲ加ヘテ二倍シ全深ニテハ口徑ノ減シ空積ノ深サヲ  
減トス

假定ノ口徑ト底徑トノ和ヲ自乘シ甲トス  
假定ノ口徑ト底徑トノ相乘シ乙トス  
右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇〇四〇三八四四ヲ乘シ現  
在ノ石數ヲ得ル

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管應ニ届出鑑札ヲ還  
納スヘシ

第十一條 改名代替リ若シハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場  
ヲ移轉シタルトキハ左ノ期限内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フ  
ヘシ

一 代替書替ハ

六十日間

一其他ノ書替再渡ハ

十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納則ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等ヲ詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ

第十五條 前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

醬油製造原品買入帳  
醬油製造帳  
醬油仕込帳  
醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲ケル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名名稱石數箇數輸入地名積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ

受ケヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添へ稅關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名石數箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケヘシ

第二十二條 稅則及ヒ此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第

三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十

六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ

科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル帖簿記載方其他書式等ノ手續ハ府

縣知事之ヲ定ム

○菓子税則 明治十八年五月  
第十一號布告

菓子税則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當  
分之ヲ施行セス

(別紙)

菓子税則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人

菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人

菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人

菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ

但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業

ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携

帶スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料

一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料

一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料

一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出

其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上

ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者	一箇年	金貳拾圓
雇人六人以上アル者	一箇年	金拾五圓
雇人三人以上アル者	一箇年	金拾圓
雇人二人アル者	一箇年	金五圓 <small>(第二十一號ヲ以テ)</small>
<small>二人ノ下以下 ノ二字ヲ削ル</small>		
雇人一人アル者	一箇年	金三圓 <small>(第二十一號ヲ以テ)</small>
<small>本項 追加</small>		
雇人ナキ者	一箇年	金壹圓
卸賣營業稅		
雇人十人以上アル者	一箇年	金貳拾圓
雇人六人以上アル者	一箇年	金拾五圓
雇人三人以上アル者	一箇年	金拾圓
雇人二人アル者	一箇年	金五圓 <small>(第二十一號ヲ以テ)</small>

菓子稅則

<small>二人ノ下以下 ノ二字ヲ削ル</small>	雇人一人アル者	一箇年	金三圓 <small>(第二十一號ヲ以テ)</small>
<small>本項 追加</small>			
雇人ナキ者	一箇年	金壹圓	
小賣營業稅			
雇人三人以上アル者	一箇年	金七圓	
雇人二人アル者	一箇年	金三圓 <small>(第二十一號ヲ以テ)</small>	
<small>二人ノ下以下 ノ二字ヲ削ル</small>			
雇人一人アル者	一箇年	金貳圓 <small>(第二十一號ヲ以テ)</small>	
<small>本項 追加</small>			
雇人ナキ者	一箇年	金壹圓	
トス			
二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノ			
露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス			

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ係ル分 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘ

シ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム(二十一年勅令第  
八號ヲ以テ改正)

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十六條 (二十一年勅令第  
八號ヲ以テ本條削除)

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五



條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ本條中加除修正)

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ及ヒ云々十八字ヲ削除ス)  
第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○烟草稅則明治二十一年四月勅令第二十號

沿革略記 明治八年二月第二十八號ヲ以テ明治九年一月一日ヨリ烟草ニ課稅スヘキ旨ヲ公布ス○同年十月第五百十號布告ヲ以テ稅則ヲ制定ス○十五年十二月第六十三號布告ヲ以テ前稅則ヲ改正ス○二十一年四月勅令第二十號ヲ以テ前稅則ヲ改正ス是レ現行法ナリ

朕烟草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

烟草稅則

第一條 烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

烟草製造人

葉烟草ヲ買受ケ刻烟草又ハ卷烟草ヲ製造スル者

烟草仲買人

葉烟草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ烟草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造烟草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ烟草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

證約金 營業場一箇所毎ニ五百圓以上

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ

爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帯シ又ハ携帯セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合

ナ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ルト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解縦毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脱ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ヲニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 烟草自用者ニシテ葉烟草若クハ無印紙ノ製造烟草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造烟草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 烟草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

烟草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十三條 烟草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ烟草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル烟草營業者ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル烟草製造人ハ三月以内ニ第二條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ烟草仲買人烟草小賣人ノ所持スル卷烟草ハ烟草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻烟草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻烟草ハ其所持人ニ於テ烟草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用ス

○煙草稅則施行細則二十一年四月三號  
今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通  
相定ム

煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ  
願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書  
ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルト  
キハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人、器械ノ員數及ヒ  
其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム  
北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數  
坪數ニ拘ハラズ證約金額ヲ増減スルコトアルヘシ證約ノ手續  
及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 煙草製造又ハ煙草仲買營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業  
ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職  
工ノ數(職工ハ其住所ニ於テ其府縣ノ租稅檢査員派出所ニ届出ヘ  
シ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ) (廿一年大藏省  
ノテ又ハ煙草仲買  
ノ六字ヲ加フ)

第四條 稅則第二條書但及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル

者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス

一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セザルトキハ  
營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 煙草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇  
人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之  
ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租稅檢  
査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其  
營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黑色	一枚	二厘
淡赭色	一枚	三厘
黃色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
茄黃色	一枚	八厘
淡青色	一枚	一錢
茶褐色	一枚	一錢二厘
淡紅色	一枚	一錢六厘
桔梗色	一枚	一錢八厘
橙黃色	一枚	二錢

老綠色	一枚	二錢四厘
淡青色	一枚	三錢
淡黑色	一枚	三錢二厘
黃綠色	一枚	四錢
橘栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘ

刻煙草每一包(函)ニ付

百匁入	六十匁入
八十匁入	五十匁入
六十匁入	四十匁入
五十匁入	三十匁入
四十匁入	二十匁入
三十匁入	十五匁入
二十匁入	十匁入
十五匁入	五匁入
十匁入	二匁入
五匁入	百本入

卷煙草每一包(函)ニ付

五十本入
二十本入
十本入
六本入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束  
 毎ニ各之ヲ紙袋入り又ハ紙包入りトシ其包裹ノ接キ目合セ目  
 等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破毀セザレハ  
 煙草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ  
 製造煙草每箇ノ本數、定價、氏名住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ  
 文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ  
 第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得  
 第十二條 製造煙草每一箇ノ定價錢位ニ滿クサル端數ナルトキ  
 ハ三厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス  
 第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス  
 第十四條 煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所  
 持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若クハ讓渡讓受ヲ  
 爲スコトヲ得ス  
 第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙  
 草十本葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳  
 列スルコトヲ得  
 第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノ  
 ヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ

之ヲ押捺スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條 煙草製造人仲買人コシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リテルトキハ壹俵壹カマス又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類量目及ヒ預リタル番號年月日預ケ主ノ住所資格氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉并又ハ賃卷ノ爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 葉煙草ノ種類番號荷造ノ區別箇數量目荷數荷受主ノ氏名住所

一 製造煙草ノ種類包裹ノ區別箇數荷受主ノ氏名住所

第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一 印紙賣渡ノ年月日

一 印紙ノ種類枚數

一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類箇數定價印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セタル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管應ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一 代替書換ハ六十日間

一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲ケル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以



上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一及ヒ第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

○煙草稅則取扱方要領二十一年四月大藏省訓令第二十二號  
煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

第一款 吸烟ノ用ニ供スル煙草類混和製ノ諸品トモハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

一葉煙草ノ取締即チ檢證封印等ノ方法ヲ施スコト

一收稅ノ調査ヲ施スコト

一質、抵當ニ係ル煙草ノ受授及ヒ廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト

一煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト

一煙草製造器械ノ取締即烙印等ノ方法ヲ施スコト

一内國產製ニ非ル煙草ノ取引買賣貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齡、免許ノ番號及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第四款 製造煙草ノ包裹ニ各種ノ商標、彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ヌ但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出置カ

第五款 天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裹及ヒ其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但

交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

○煙草印紙交換手續二十一年七月大藏省告示第八十九號  
煙草稅則改正ニ付煙草印紙交換手續左ノ通之ヲ定ム

煙草印紙交換手續

第一條 煙草營業者天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リ其所持スル製造煙草ノ包裹若シハ其包裹ニ貼用シタル印紙ヲ毀損

若シハ汚染シタルトキハ其損失ニ係ル印紙ノ價格一口壹圓以上ノ者ニ限リ新印紙ト交換ヲ請求スルコトヲ得

第二條 印紙交換ヲ請求セントスル煙草營業者ハ其天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其審明ヲ受

クヘシ

第三條 租稅檢査員其事實ヲ審明シ印紙交換ヲ許可スヘキモノト認ルトキハ損失ニ係ル印紙ヲ毀却シ其煙草ニ封印ヲ施シ煙

草營業者ヲシテ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ調製  
 セシメ其餘白ニ審明ヲ證シ年月日官氏名ヲ記載シ官印ヲ押捺  
 シテ之ヲ煙草營業者ニ下戻スヘシ  
 第四條 煙草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役所  
 ニ差出交換ヲ請求スヘシ  
 第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ  
 損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ價格  
 一 貳拾圓未滿壹圓ニ付 八拾錢  
 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 八拾五錢  
 第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ審明書ヲ調査シ前條ノ割合  
 ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ  
 第七條 煙草營業者新印紙ヲ請取リタルトキハ租稅檢査員派出  
 所ニ申出第三條煙草封印ノ解除ヲ請ヒ包裹ヲ改施シ印紙ヲ貼  
 用シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

十六年第四十三號布告  
 遺稅則其他稅則ニ關スル  
 犯罪租稅官吏取調處分方  
 案本類ニ載ス

○賣藥印紙稅規則 明治十五年十月  
 第五十一號布告  
 賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ  
 割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄	印稅壹厘
一同貳錢迄	同貳厘
一同三錢迄	同三厘
一同五錢迄	同五厘
一同拾錢迄	同壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡色
貳厘	青色
三厘	黃色

賣藥印紙稅規則

五厘	壹錢	貳錢	三錢	四錢	五錢	拾錢
----	----	----	----	----	----	----

茶	赭	綠	濃	橙	紫	深
褐	色	色	青	黃	色	紅
色	色	色	色	色	色	色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣

シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

(印紙貼用雜形略之)

○賣藥印紙交換規則 大藏省令第二十三號  
賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄セ  
ンカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙  
額一ト口拾圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト

交換スヘシ

一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付  
一 貳拾圓以上壹圓ニ付

交換新印紙八拾錢  
同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ檢査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ檢査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

○無印紙ノ賣藥自用者買受讓受等ノ禁令十九年十月三十一號賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○證券印稅規則明治十七年五月十一號布告

○

沿革略記

明治六年二月第五十六號布告ヲ以テ諸證文印紙貼用規則ヲ制定ス○七年七月第八十一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ證券印稅規則ヲ制定ス○八年七月第二十號布告ヲ以テ人民ヨリ各廳ニ差出ス受負并約定筋ニ涉ル書類ニ證券印紙界紙ノ用方モ本則ニ據ラシム○十七年五月第十一號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治七年七月第八拾壹號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年七月第百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラヌ下ニ定ムル

所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ税印ノ  
押捺ヲ請フコトヲ得

- 一 當座預リ金引出小切手 印税 五 厘
- 一 委任狀 同 五 厘
- 一 金高記載ナキ約定證文 同 壹 錢
- 一 遺物證文 同 壹 錢
- 一 跡式讓證文 同 壹 錢
- 一 讓與證文 同 壹 錢
- 一 期限ヲ定メサル預リ金證文 同 壹 錢
- 一 耕地小作證文 同 壹 錢
- 一 雇人請合狀 同 壹 錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹 錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹 錢
- 一 地所預リ證文 同 壹 錢
- 一 家屋預リ證文 同 壹 錢

- 一 諸物品切手 同 壹 錢
  - 一 借地證文 同 壹 錢
  - 一 賣買仕切書 同 壹 錢
  - 一 保險證文 同 壹 錢
  - 一 諸會社株券 同 壹 錢
  - 一 送金手形 同 壹 錢
  - 一 金 錢 通帳 一年以内一冊ニ付 同 壹 錢
  - 一 諸物品錢判取帳 同 貳拾錢
  - 一 結社約定書 同 壹 錢
- 但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確  
定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸  
般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ
- 左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ  
印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀

印稅壹錢

一營業ニ關スル請取書

同壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以

テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

一金錢借用證文

一住所賣買證文

一金高記載アル諸物品預リ證文

一金高記載アル諸物品借用證文

一諸物品賣買證文

一金錢定期預リ證文

一金高記載アル諸般ノ契約證書

金高壹圓以上貳拾圓未滿	印稅壹錢
金高貳拾圓以上五拾圓未滿	同貳錢
金高五拾圓以上百圓未滿	同四錢
金高百圓以上百五拾圓未滿	同六錢
金高百五拾圓以上貳百圓未滿	同八錢
金高貳百圓以上三百圓未滿	同拾壹錢
金高三百圓以上四百圓未滿	同拾四錢
金高四百圓以上六百圓未滿	同貳拾錢
金高六百圓以上八百圓未滿	同貳拾六錢
金高八百圓以上千圓未滿	同三拾貳錢
金高千圓以上千四百圓未滿	同三拾八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿	同四拾四錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿	同五拾錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿	同六拾錢

金高貳千五百圓以上三千圓未滿 印稅七拾錢  
 金高三千圓以上三千五百圓未滿 同 八拾錢  
 金高三千五百圓以上四千圓未滿 同 九拾錢  
 金高四千圓以上 同 壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所  
 ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ證文

一質物預リ書  
札

金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅壹錢  
 金高貳拾圓以上 同 貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所  
 ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅貳錢  
 金高百圓以上 同 四錢

一爲替手形 同 四錢

一荷爲替手形

一約束手形

金高五拾圓未滿 印稅壹錢

金高五拾圓以上百圓未滿 同 貳錢

金高百圓以上貳百圓未滿 同 四錢

金高貳百圓以上五百圓未滿 同 八錢

金高五百圓以上千圓未滿 同 拾五錢

金高千圓以上貳千圓未滿 同 貳拾五錢

金高貳千圓以上 同 五拾錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱  
 ニ拘ハラヌ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公

立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ



第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿ナタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ捺印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ猶之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未ダ滿タサルカ又ハ使用期限未ダ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其理由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ

就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘ

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
 第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○印紙及手形用紙ノ種類定價第十七年五月  
 今般第拾壹號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム  
 但印紙ハ當分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得  
 印紙  
 赭色  
 定價五厘

橙黃色	同	壹錢
實綠色	同	貳錢
萌黃色	同	伍錢
桔梗色	同	拾錢
青色	同	貳拾五錢
淡黑色	同	五拾錢
赤色	同	壹圓
手形用紙	定價	壹錢
老綠色	同	貳錢
桔梗色	同	四錢
淡黑色	同	八錢
橙黃色	同	拾五錢
淡赭色	同	貳拾五錢
淡紅色	同	五拾錢
淡青色	同	同

○印稅押捺ノ小切手銀行會社コテ不用ノトキ押換ヲ請フテ得  
 大藏省令第十號  
 明治十二年第三十一號布告ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケタル小切手並十七年第十一號布告ニ依リテ銀行會社ノ押印ヲ受ケタル引出小切手未タ使用セサルモノニシテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ稅印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印ニ係ルモノハ手數料トシテ壹割ヲ減シ即チ舊小切手百枚ニ

對シ新小切手九拾枚ノ割合ヲ以テ税印ヲ捺換スルモノトス

○印紙類賣下賣捌規則 明治十九年六月  
大藏省令第二十一號

沿革略記

明治十五年十二月第二十七號布達ヲ以テ印紙賣捌手續ヲ定ム○十七年四月第九號布達ヲ以テ前令ヲ廢止

シ印紙賣捌規程ヲ定ム○十九年六月大藏省令第二十一號ヲ以テ前令ヲ廢止シ印紙類賣下賣捌規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ

證券印紙 手形用紙共

烟草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙(二十一年大藏省令第十號ヲ以テ本項追加)

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得タル者ノ外賣下ヲ爲サ、ルモノトス

第四條 北海道廳長官府知事「縣令」ハ其管内各郡區ノ實況ニ應シ印紙類賣捌所ノ配置方ヲ計畫シ豫メ其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ヘシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區内ニ居住スル者ニ限リ之ヲ許ス  
一 陸軍海軍及ヒ官吏恩給令ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一 巡查看守給助例ニ依リテ傷疾ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者  
 一 陸軍恩給令第二十一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項官吏  
 恩給令第十條ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者  
 一 巡查看守給助例第二條第二項ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ  
 受クル者

第六條 第五條ノ資格アル出願者其郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿タ  
 サルトキハ其郡區内ニ居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令官吏恩  
 給令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ  
 前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定數ニ滿タサルトキハ二年以内ノ  
 期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトアル可シ

第七條 煙草營業人若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ煙草印紙賣捌ヲ  
 許可セス賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ  
 賣藥印紙賣捌ヲ許可セサルモノトス

煙草稅則第三十九條賣藥印紙稅規則第八條訴訟用印紙規則第十一

條證券印稅規則第二十五條登記印紙規則第四條ニ依リ處罰ヲ受ケ  
 タル者ニハ滿三年間印紙類ノ賣捌ヲ許可セサルモノトス(二十一年  
 十二號ヲ以テ第二十五條ノ  
 下ニ登記云々ノ九字ヲ加フ)

第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ニ  
 願出テ賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第九條 印紙類賣捌人改名又ハ同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ  
 申出テ標札ノ訂正ヲ受クヘシ

但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ其下渡ヲ受クヘシ

第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡ス可シ  
 但第五條第六條ノ受恩典者ニハ其代金五百圓マテハ公債證書ヲ  
 抵當トナシ六箇月以内之レカ延納ヲ許スコトアル可シ

第十一條 印紙類ハ各一口ノ拂受高ニ從ヒ左ノ區別ヲ以テ其實下  
 ナ爲スモノトス(二十一年大藏省令第十  
 二號ヲ以テ各項共改正)

拂受高一ト口ノ代金

劃引高

證券印紙

五百圓未滿

百分ノ七

煙草印紙

五千圓未滿

百分ノ八

訴訟用印紙

賣藥印紙

五千圓以上

百分ノ九

登記印紙

五百圓未滿

百分ノ四

第十二條

印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌クヲ得ス

第十三條

印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サス

第十四條

印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ

但煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌タルキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

第十五條

印紙類水火盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス

但煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌タルキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

第十六條

印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シタルモノハ十錢以上取纏メタルモノニ限り左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ

損傷

汚染 印紙壹圓ニ對シ 交換下付印紙八拾錢

第十七條

印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ル時ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌標札ヲ返納ス可シ此場合ニ於テハ返納印紙定價額十分ノ一ヲ減シタル代金ヲ以テ之ヲ買戻ス可シ(二十一年大藏省

テ面稅ヲ定價ニ代價ヲ代金ニ改メ)

一 廢業又ハ二箇月以上休業スル時

一 受恩典者ニシテ恩給ヲ受クルノ權消絶シ又ハ恩給停止ヲ受ケタル時

一 他郡區ニ移住スル時

一 賣捌ヲ禁止セラレタル時

第十八條

煙草印紙賣藥印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サス

印紙類賣下賣捌規則

五百三十七

五百三十七

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ煙草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ煙草營業者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス  
賣藥印紙ノ賣捌ニ關スル業務ヲ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス

第二十條 北海道廳長官府知事「縣令」ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況及ヒ現在高等ヲ檢査セシムヘシ

第二十一條 此規則ニ違背シタル者アル時ハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府知事「縣令」ニ於テ其實捌方ヲ禁止スルコトアル可シ

○人民所持ノ印紙ヲ印紙類賣捌人ニ賣渡スノ場合 大藏省訓令第六十五號

左ノ場合ニ於テ人民ノ所持スル印紙ハ其同府縣内ニ在ル印紙類賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ルモノトス但此場合ニ於テハ印紙類賣捌人ヲシテ其買取リタル事由及ヒ賣渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ置カシムヘシ(二十二年大藏省訓令第一號)  
一 印紙類賣捌人ニシテ印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ或項目ニ該當スルトキ  
一 印紙ヲ所持スル人民ニシテ明治十七年大藏省第七十三號達

ノ場合ニ該當スルトキ

一 何人ニ限ラズ遺失印紙ヲ拾得タルモノニテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セラレタルトキ

○船稅規則 明治十六年四月十三號布告

沿革略記

明治元年八月達ヲ以テ軍艦ノ外一切ノ商船遊船共燒印ヲ捺シ稅銀ヲ徵シ無印ノ船舶往來ヲ禁ス○二年十月二日民政部外務兩省達ヲ以テ始メテ西洋形商船及ヒ日本形商船ノ稅額ヲ定ム○四年八月布告ヲ以テ船稅規則ヲ制定ス○六年一月第三十一號布告ヲ以テ遊船ノ稅則ヲ制定ス○七年二月第二十一號布告ヲ以テ解漁船並海川小廻船等ノ稅則ヲ制定ス○八年二月第二十七號布告ヲ以テ遊船稅ハ都テ七年第二十一號布告解漁船並海川小廻船稅則ニ據ラシム○十六年四月第十三號布告ヲ以テ前令船稅ニ關スル規則ヲ廢止更ニ船稅規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船税ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

(別冊)

船税規則

第一章 鑑札 税率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ税率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓

同 風帆船 同 金拾圓

日本形船積石五拾石以上 百石ニ付同 金貳圓

同 積石五拾石未滿 自舳梁 三間迄ハ一年金三拾錢

同 舳船小廻船積石ニ拘ラス 長 至艦梁 三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船 長 自舳梁 三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船并舳船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定

十八年第十六號布告ヲ以テ日本形五百石以上ノ船製造ヲ二十年一月ヨリ禁止ス

繫場所所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免除ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船、バッテリー船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分テ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨ

リ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り定繫場所所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス



第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ル者ハ其脱税高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○

○車稅規則 明治八年二月二十七號布告

沿革略記 明治四年五月達ヲ以テ東京府下商賈用大小車及諸官員華士族卒所持ノ馬車人力車ヨリ若干ノ金額ヲ徵シ道路修繕費ニ充ツ○六年一月第三十一號布告ヲ以テ僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船等諸稅規則ヲ制定ス○八年二月第二十七號布告ヲ以テ六年第三十一號布告ノ遊船ハ船稅規則ニ照シ收稅シ車類ハ改メテ車稅規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限り相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月第二十一號布告解漁船并ニ海川小廻船等船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

馬車二正立以上 一箇年税金三圓  
 同 一正立 一箇年税金貳圓  
 荷積馬車 一箇年税金壹圓  
 人力車貳人乘 一箇年税金貳圓  
 同 一人乘 一箇年税金壹圓  
 牛車 一箇年税金壹圓  
 荷積大七六八車 一箇年税金壹圓  
 荷積中小車但大六以下 一箇年税金五拾錢

第二則 新調ノ車ハ總テ其都度區戸長ヘ届出檢印可申受事  
 但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破  
 解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得  
 事

第四則 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戸長ヘ取集メ

十四年第七十二號布告前  
例處斷方參看第十三類ニ  
載ス

其管轄廳ヘ可相納事  
 但前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り其  
 管轄廳ヘ可相納事(十一年第四號布告ヲ以テ納稅期改正)

第五則 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五  
 倍科料タルヘキ事

附則(二十一年勅令第七號ヲ以テ本則追加)  
 北海道廳管内ニ限り第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七  
 大八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

○人力車一人乘二人乘ノ區別十四年九月三日第三十二號達  
 八年第廿七號布告車稅規則中人力車ノ儀横巾内法曲尺貳尺未滿  
 ナ以テ一人乗トシ右以上ヲ以テ二人乗ト相定區別可致此旨相達  
 候事

○荷積車大七車中小車ノ區別十一年七月三日第三十五號達  
 車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷臺全ク荷物ヲ積ム所ノ縦横相乘尺積十四  
 坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車以下ト相心得

更ニ區別可致此皆相違候事

○米商會所并株式取引所收稅規則明治十八年十一月第三十八號布告

沿革略記 明治十一年九月第三十號布告ヲ以テ株式取引所稅額及ヒ納期ヲ定ム○十五年十二月第六十五號布告ヲ以テ米商會所株式取引所仲買人納稅規則ヲ定ム○十八年十一月第三十八號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ米商會所並株式取引所收稅規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

米商會所並株式取引所收稅規則左ノ通制定シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス

但明治十一年九月第三拾號布告明治十五年十二月第六拾五號布告及同年同第六拾七號布告ハ明治十八年十二月一日ヨリ廢止ス

米商會所并株式取引所收稅規則

第一條 會所并取引所ノ稅金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ヶ月分ヲ翌月十

日マテニ地方廳ニ上納スヘシ

米穀定期賣買

賣買各約定代金高

萬分ノ六(二十一年勅令第七十五號ヲ以テ千分ノ二ヲ萬分ノ六ニ改ム)

賣買各約定代金高

公債證書定期賣買

萬分ノ三

賣買各約定代金高

諸株式定期賣買

萬分ノ六

第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル稅金ハ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルユトアルモ其稅金ハ之レヲ還付セス

第四條 「大藏卿」ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第五條 會所并取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高ヲ詐リ脫稅シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所并取引所ヨ

リ其脫税ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

○牛馬賣買規則 明治五年十一月  
第三百三十號布告

沿革略記

明治三年三月民政部ヨリ牛馬賣買渡世ノ者ニ鑑札ヲ  
下付シ冥加金ヲ納メシム○四年十二月大藏省達ヲ以  
テ冥加金ノ額ヲ改ム○五年十一月第三百三十號布告ヲ以  
テ牛馬賣買規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

牛馬賣買渡世ノ者免許税ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今  
般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世ノ者免許税ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議ノ次  
第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引  
上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨

ニ處置可致事

壬申十月

大藏省

(別紙)

牛馬賣買規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬一鼻綱ニ  
付免許鑑札一枚相渡可申事

但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限リ鑑札一枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ  
七疋以内二枚ヲ所持スル者ハ十四疋ニ限ルヘシ其餘準之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分  
納税シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税可致事  
(七年第四十五號  
布告ヲ以テ改正)

第三條 免許鑑札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候モ有之其段申出  
候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ヶ年税金一圓上納可致事

但右税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限各管廳へ取立租税「寮」へ上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事(八年第十五號布告ヲ以テ但書改正) 十一年第四號布告ヲ以テ納税期改正)

第五條 免許鑑札焼印并押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共へ相渡可申事  
但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許税十倍ノ料料可申付事  
但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代并料料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

十四年第七十二號布告前例處斷方參看以下條之節十三類ニ載ス

第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事(七年第三百三十一號布告ヲ以テ但書共追加)  
但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許税五倍ノ料料可申付事

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其管轄廳へ届出新規鑑札可申受事(八年第六百六十六號布告ヲ以テ但書共追加)  
但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金貳拾錢可相納事  
(雛形略之)

○北海道牛馬賣買規則明治十一年十二月 開拓使乙第廿九號布達  
牛馬賣買規則別紙ノ通相定明治十二年一月ヨリ施行候條此旨布達候事

(別紙)

牛馬賣買規則

第一條 牛馬賣買營業ノ者牛馬一鼻綱ニ付免許鑑札一枚宛申受ヘシ

但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限リ鑑札一枚所持ノ者旅行ノ時ハ七匹以内二枚所持ノ者ハ十四匹以内トス其餘之ニ準スヘシ

第二條 免許鑑札ヲ新ニ申受ル者六月以前ハ全年分七月以降ハ半年分納税シ廢業ノ者七月以降ハ全年分六月以前ハ半年分納税スヘシ

第三條 免許鑑札一枚ニ付一ケ年税金一圓宛上納スヘシ

但税金ハ毎年兩度ニ半額ツ、前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限納付シ新ニ申受ル者ハ其都度半額即納スヘシ

第四條 免許鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管廳へ届出新規鑑札申受ヘシ  
但鑑札一枚ニ付手数料金貳拾錢上納スヘシ

十四年第七十二號布告例  
處斷方登看以下依之第  
十三類ニ載ス

第五條 免許鑑札ヲ所持セスシテ密ニ賣買スル者ハ其牛馬ヲ官没シ及鑑札税十倍ノ科料ヲ徴收スヘシ

第六條 免許鑑札ヲ借受ケ賣買スル者ハ第五條ニ同シ其貸渡ス者ハ鑑札税五倍ノ科料ヲ徴收スヘシ

第七條 第五條第六條ノ犯者ヲ見認メ訴出ル者ハ本犯科料ノ半額ヲ與フヘシ

○北海道水産稅則 明治二十年三月 勅令第六號

沿革略記

明治六年十月開拓使無號布達ヲ以テ北海道產物輸出取締ノ爲メ出帆免狀ヲ下付スルモノト爲ス○八年二月第十四號布告ヲ以テ北海道產物出港稅則並各港船政所規則ヲ制定ス○同年四月開拓使無號布達ヲ以テ六年十月ノ無號布達ヲ廢止ス○十年八月第五十六號布告ヲ以テ八年第十四號布告ヲ改正ス○十七年二月第四號布告ヲ以テ拾昆布並

帆立身税ヲ徴收ス○同年五月第十二號布告ヲ以テ北海道ニ於テ納税スヘキ水産物取獲ノ手續ヲ定ム○二十年三月勅令第六號ヲ以テ總テ前令ヲ廢シ更ニ北海道水産税則ヲ公布ス是レ現行法ナリ

朕北海道水産税則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道水産税則

第一條 北海道水産物營業人ハ此税則ニ從ヒ水産税ヲ納ムヘシ

第二條 北海道廳長官ハ水産税ヲ徴收スル爲メ水産物營業人ノ組合ヲ定ムヘシ

第三條 水産税ハ各組合水産物產出高價額百分ノ五ヲ以テ其組合一箇年ノ税額ト爲シ之ヲ各營業人ニ賦課スルモノトス

第四條 此税則ニ於テ水産物トハ左ノ種類ヲ云フ

第一類

- 生鯨 ナモシ
- 生鯨 ナモシ
- 生鮭 ナモシ
- 生鮭 ナモシ
- 生鮪 ナモシ
- 生鮪 ナモシ
- 生鮪 ナモシ
- 生鮪 ナモシ

海馬

第二類

- 魚粕 ウヰカス
- 乾身缺鯨 ホシミカキニシ
- 乾胴鯨 ホシロコニシ
- 乾脊割鯨 ホシセリニシ
- 乾外割鯨 ホシカワリニシ
- 乾二ツ割鯨 ホシフタツリニシ
- 練鯨粕 リズニカス
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 鹽鯨 シホメ
- 乾鯨 ホシメ
- 乾鮐 ホシメ
- 煎海鼠 ホシメ
- 乾牡蠣 ホシメ
- 若布 ワカメ
- 銀杏草 ギンナクサ
- 海扇殼 ホシメ
- 乾海扇 ホシメ
- 乾河豚 ホシメ
- 布海苔 フノリ
- 乾牡蠣 ホシメ
- 昆布 コンブ
- 銀杏草 ギンナクサ
- 細布 ホシメ

第五條 此税則ニ於テ水産物營業人トハ第四條第一項ノ水産物ヲ採取スル者又ハ原品ニ勞力ヲ加ヘテ第四條第二類ノ水産物ト爲ス者ヲ云フ

第六條 水産税ハ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ水産物產出高ヲ平均シ其三箇年間北海道ニ於テ該税品拂下ヲ爲シタル代價

ヲ平均シテ價額ヲ定メ其組合ノ稅額ヲ算出スルモノトス但明治二十年以後三箇年以上ヲ經過シ大藏大臣ニ於テ北海道ノ全部又ハ其幾分ニ就キ水産物既定ノ價額不相當ナリト認ムルトキハ更ニ既往三箇年間ノ產出高并其賣買相場ヲ平均シテ之ヲ改正スヘシ

第七條 第四條第一類ノ水産物ヲ以テ第二類ノ水産物ト爲ストキハ第二類ノ水産物ニ就キ課稅ス

第八條 水産物營業人トナラントスル者ハ水産物營業人ノ組合ニ加入スヘシ

第九條 北海道廳長官ハ水産物營業人各組合中ニ收稅委員ヲ置キ其組合ニ係ル收稅ノ事ヲ擔理セシム但收稅委員ニ關スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第十條 收稅委員ハ水産物營業人組合會ヲ開キ組合ノ稅額ニ對シ各自ノ負擔スヘキ稅金ヲ評決セシメ郡區長ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム但營業人ノ組合會期其他本條ニ關スル手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

十年第七十九號布告租稅未納者處分ハ本類ニ載ス參看

第十一條 水産物營業人ハ納期ニ從ヒ其稅金ヲ組合收稅委員ニ納ムヘシ

收稅委員ハ各營業人ノ稅金ヲ徵收シ之ヲ國庫金出納所ニ納ムヘシ

怠納者アリタルトキハ之ヲ郡區長ニ届出ヘシ

第十二條 郡區長ハ前條ノ届出アリタルトキハ其怠納者ノ營業ヲ停止シ先ツ其水産物ヲ公賣シ仍ホ營業ニ使用スル器具、船舶、建物及海産乾場ヲ公賣スルコトヲ得但公賣ニ關シテハ明治十年第七十九號布告ヲ適用ス

第十三條 第八條ノ組合ニ加入セスシテ水産物ノ營業ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス

第十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十五條 水産稅ノ納期及此稅則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ



定ム

附則

第十六條 従前現品定税ヲ徴收シ又ハ現品税ヲ徴收セス若クハ無税ニシテ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ産出高詳カナラサルモノハ當分其營業人各自ノ現産出高ニ就キ第六條ノ税品拂下平均代價ヲ以テ價額ヲ定メ其百分ノ五ヲ税金トシテ徴收スヘシ但明治二十年以後三箇年ヲ經過シタル上ハ大藏大臣ニ於テ本税則ニ據リ改正スヘシ

第十七條 前條ノ營業人ニ關シ特ニ明文ヲ掲ケサルモノハ第十條ノ税金ニ係ル事項ヲ除クノ外總テ此税則ニ從フヘシ

第十八條 第十六條ノ營業人ニシテ其水産物ノ産出高ヲ偽リ逋税シタル者ハ其逋税高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處シ其水産物ヲ没收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徴ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第十九條 明治十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及従前北海道物産税ニ關スル命令規則ハ此税則施行ノ日ヨリ廢止ス

○北海道水産税則施行細則二十年四月六號大藏省令第六號  
今般勅令第六號ヲ以テ北海道水産税則公布相成候ニ付施行細則左ノ通之ヲ定ム

北海道水産税則施行細則

第一條 水産税ノ納期及ヒ其納額割合ハ左ノ如シ但組合會ノ評決ヲ以テ毎納期ノ納額割合ヲ繰上ケ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上ケヘキ割合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ(二十一年大藏省令第四號ヲ以テ但以下七十字ヲ加フ)

渡島國	後志國	石狩國 <small>(石狩郡ヲ除ク)</small>	天鹽國	北見國 <small>(二十一年大藏省令第四號ヲ以テ石狩國ノ下ニ割註ヲ加フ)</small>
第一期	六月一日ヨリ	六月三十日限リ	百分ノ四拾	
第二期	八月一日ヨリ	八月三十一日限リ	百分ノ四拾	
第三期	十月一日ヨリ	十月三十一日限リ	百分ノ七	
第四期	十二月一日ヨリ	十二月三十一日限リ	百分ノ七	
第五期	翌年三月一日ヨリ	三月三十一日限リ	百分ノ六	
膽振國	日高國	十勝國	釧路國	根室國
				千島國

石狩國石狩郡(二十一年大藏省令第四號ヲ以テ)

第一期	六月三十日限リ	百分ノ五
第二期	八月三十一日限リ	百分ノ二十
第三期	十月三十一日限リ	百分ノ二十五
第四期	十二月三十一日限リ	百分ノ二十五
第五期	翌年三月三十一日限リ	百分ノ二十五

第二條 稅則第十六條ニ該當スル水産稅ノ納期ハ左ノ如シ

第一期	三月一日ヨリ五月三十一日ニ至ル	産出シタル分	六月十六日限リ
第二期	六月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル	産出シタル分	八月十六日限リ
第三期	八月一日ヨリ九月三十日ニ至ル	産出シタル分	十月十六日限リ
第四期	十月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル	産出シタル分	十二月十六日限リ
第五期	十二月一日ヨリ翌年二月末日ニ至ル	産出シタル分	三月十六日限リ

第三條 收稅委員ハ稅則第十六條ニ該當スルモノ、外毎年水産物毎種類産出ノ終リタルトキ其組合ニ於テ産出ノ水産物總高並價額ヲ調査シテ取調書ヲ製シ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ヘシ但其産出ノ季節ヲ限ラサルモノハ毎年四月九月ノ兩度ニ其前月マテノ總高ヲ取調フルモノトス

第四條 稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ハ第二條期限内ニ産出シタル水産物ヲ一種類毎ニ取調每期ノ翌月三日以内ニ其組合收稅委員ニ届出ツヘシ

第五條 收稅委員ハ第四條ノ届書ヲ調査シテ取調書ヲ製シ與書

捺印ノ上每期ノ翌月七日以内ニ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ差出スヘシ

第六條 郡區長ハ第五條ノ取調書ニ據リ稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ノ納稅額ヲ算出スヘシ但三ヶ年平均相場分明ナラサル地ハ其近接地ノ三ヶ年平均相場ニ據ルヘシ若シ其平均相場ヲ得サルキハ本地ト近接地ノ其年平均相場ニ據ル者トス

第七條 水産稅ノ徵收ハ北海道廳長官ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ各組合收稅委員ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第八條 各組合收稅委員ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ其組合中壹人別納額元帳ニ據リ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ稅金ヲ取纏ムヘシ

第九條 各收稅委員ニ於テ取纏メタル稅金ハ翌日マテニ之ヲ國庫金出納所ニ納付シ若クハ戶長ニ委託シテ之ヲ該所ニ納付スヘシ但相當ノ保護法ヲ設クルトキハ納期中ニ限り壹千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其收稅事務取扱所ニ留ムルコトヲ得

第十條 郡區長ハ第七條ニ據リ各組合收稅委員ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルトキハ總テ歲入取扱順序第二章ニ準據シ取扱フヘシ

第十一條 各組合收稅委員ハ徵稅傳令書ヲ製シ各納稅者ニ交付シ稅金取纏メノ上之ヲ納付シ又既納稅金拂戻ヲ要スルトキハ總テ歲入取扱順序第三章ニ準據シ取扱フヘシ

第十二條 各組合收稅委員ニ於テ各納稅者ヨリ取經メタル税金ヲ便宜ニ依リ戶長ニ委託シテ納付セントスルトキハ徵稅令書ヲ受領セシ際其旨郡區長へ届出ツヘシ

第十三條 郡區長ハ第十二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ戶長ニ命令シテ其税金ヲ預カラシメ國庫金出納所ニ納付セシムヘシ

第十四條 戶長ハ郡區長ノ命令ニ依リ各組合收稅委員ヨリ税金納付ノ委託ヲ受ケタルトキハ歳入取扱順序第六十六條第六十七條第六十八條ニ準據シ取扱フヘシ

第十五條 水産稅徵收ニ關シ第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ニ掲グル外ハ總テ歳入歳出納規則及歳入取扱順序ニ據ルヘシ

第十六條 第三條水産物ノ總高取調ニ關シ水産物營業人ニ於テ其產出高ヲ偽リ又ハ收稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス但產出高ヲ偽リタル者自首スルトキハ其罪ヲ問ハス

第十七條 水産物營業人ニ於テ第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

八年第百六十三號及九  
年第二十九號布告西形  
日本船各開港場出入規則  
ハ第三類ニ載ス

○露領樺太島貿易輸出入物品稅免除明治九年十二月  
第四百九十九號布告  
露西亞國領樺太島貿易ノ儀當分ノ内内國產物内地運送同様諸船舶出入港手数料及輸出入物品稅免除候條明治八年十一月 第一百六十三號及本年三月第二十九號布告ノ通船舶出入港及物品輸出入共其都度開港場稅關へ可届出此旨布告候事

但樺太島へ渡航スル船舶ハ必ス内地開港場ヨリ出船シ歸着スルモ同様可心得事

○國稅徵收法明治二十二年三月  
法律第九號  
朕國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ據テ之ヲ徵收ス

第二條 市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務アルモノトス

前項ノ事務ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第三條 其他ノ國稅ハ勅令ヲ以テ命スルトキハ前條ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ於テハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付スヘシ

第四條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第五條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ府縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六條 納稅人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セサルトキハ別ニ定ムル所ノ法律ニ據リ之ヲ處分ス

二十二年勅令第三十三號  
ヲ以テ市町村長ヲシテ徵  
收セシムル國稅ノ種目ヲ  
定ム第六類ニ載ス參看

第七條 國稅納期ノ末日日曜日又ハ大祭日祝日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス

第二章 徵收

第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スル

トキハ府縣知事ハ市ニ郡長ハ町村ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

前項外ノ國稅ヲ徵收スルトキハ市ニ於テハ府縣知事町村ニ於テハ郡長ヨリ各納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ

第九條 市町村長ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ發スヘシ

第十條 納期アルモノハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外該納期ノ十五日以前納期數日ニ涉ルモノハ初

ヲ定メ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ

第十一條 第八條第一項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ稅金ヲ市町村收入役ニ拂込ミ其領收證ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ル